

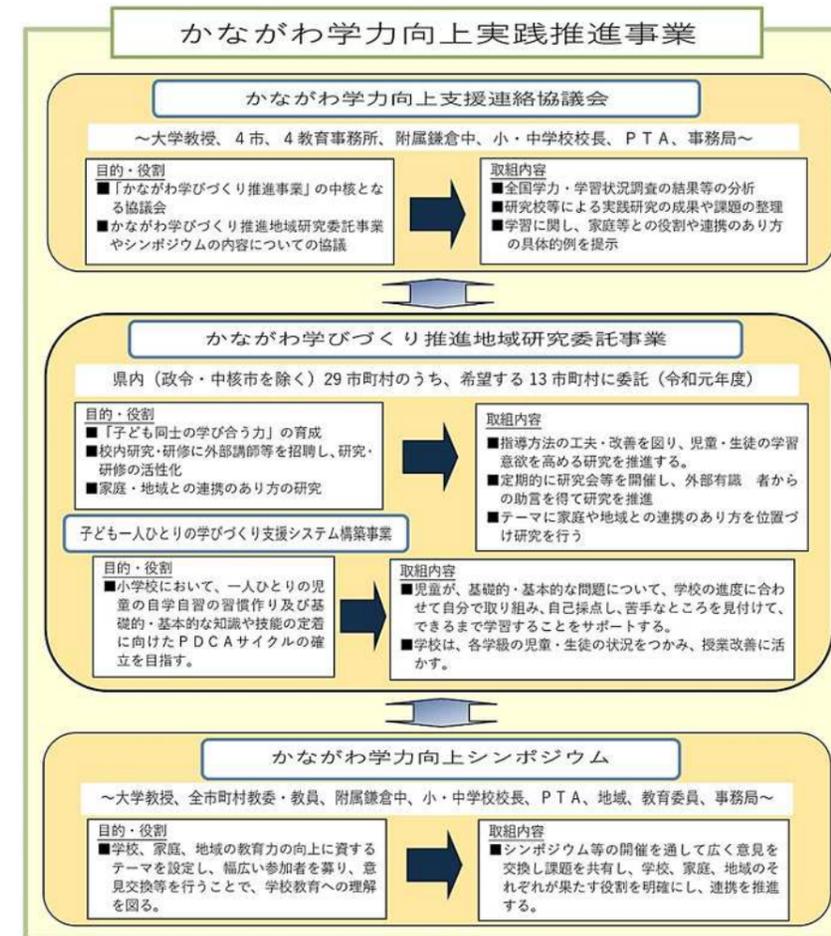
藤沢市	「学び」と「育ち」を9年間の枠でとらえた小中連携のあり方
茅ヶ崎市	豊かな人間性と自立性をはぐくむ学校教育の充実 ～学びの質を高める学校教育の充実～
三浦市	郷土三浦に誇りをもち、これからの社会をたくましく生き抜く人材の育成
葉山町	葉山町立小中学校義務教育9年間を見通した「学び」の工夫
寒川町	確かな学力を身に付ける教育の推進 ～豊かな心と確かな力 瞳輝く 寒川の子～
厚木市	家庭学習の充実と、わかった・できたの実感を意識した授業づくりによる学力向上
海老名市	外国語教育を軸にした『学びづくり』の研究
愛川町	主体的に人や社会と関わり、よりよく学びつづけようとする児童・生徒の育成
清川村	幼・小・中の12年間を見通した学力と豊かな心の育成～輝き・愛着・誇りを持って未来を支える「清川っ子」の育成を目指して
秦野市	学びの高まりと授業改善
大井町	「質の高い授業の創造」～一人ひとりの考える力を育てる授業づくりと 人間としてよりよく生きるための道徳性の育成をめざして～
松田町	質の高い学びの創造 ～他者との協働をとおして～
山北町	主体的な学びをとおした確かな学力の向上をめざして

※各地域の研究の概要は、かながわ学力向上シンポジウムで配付しました。  
 神奈川県ホームページにも掲載しています。[かながわ 学びづくり推進地域](#)で検索。  
 ※令和2年度推進地域：藤沢市、茅ヶ崎市、三浦市、葉山町、寒川町、海老名市、愛川町、清川村、秦野市、南足柄市、大井町、松田町、山北町

# かながわの学びづくりプラン

神奈川県教育委員会では、「かながわ学びづくり学力向上実践推進事業」を平成20年度から実施しています。この事業は、平成19年4月に始まった全国学力・学習状況調査の調査結果等の分析をとおり、今後の指導の改善につなげることを目的とした有識者を中心とする「神奈川県検証改善委員会」の報告をもとに始まりました。

本事業では、左のように、3つの取組（かながわ学力向上支援連絡協議会、かながわ学びづくり推進地域研究委託事業、かながわ学力向上シンポジウム）を連動させながら、教員の授業力の向上、家庭の協力による児童・生徒の自学自習の習慣化等を図っています。



かながわ学びづくり推進事業

令和元年度 かながわ学力向上シンポジウム

主催：神奈川県教育委員会  
 共催：かながわ学力向上支援連絡協議会

日時 令和2年1月17日（金）13時30分開会  
 受付 13時00分～

会場 神奈川県立総合教育センター（善行庁舎）大講堂  
 〒251-0871 藤沢市善行7-1-1

時程

- 13時30分～13時40分 開会あいさつ・日程説明
- 13時40分～14時20分 (基調講演)  
 「かながわの学び、その先へ」  
 ～学びづくりでつながる未来～  
 横浜国立大学教育学部教授 青山 浩之 先生  
 横浜国立大学教育学部教授 池田 敏和 先生
- 14時20分～16時30分 (語りあおう)  
 「子どもたちの学びをつくるには」  
 コメンテーター  
 池田先生、青山先生、学校代表、PTA代表  
 ファシリテーター  
 子ども教育実践課 指導主事
- 16時30分～16時45分 閉会あいさつ・アンケート記入

子どもたちの学びが充実する事例を知りたいなあ。  
 学力向上につながる私の取組は・・・  
 他地域の取組が生かせるか？  
 こんなのを学んでいる

悩んでいることを話せたい。  
 子どもたちの学びについて、いろいろな視点で語り合いたい。

## 令和元年度 かながわの学びの充実・改善のために

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査 神奈川県公立小・中学校調査結果の分析・活用資料



県教育委員会では、各学校の取組の参考となるよう、平成28年度に本調査結果を総合的に分析し、全県の傾向を「かながわの強みと課題」として整理しました。  
 さらに、平成29年度以降、各学校がこの強みを生かし課題を改善するための取組例などを「学びの充実・改善ポイント」として示してきました。

「学びの充実・改善ポイント」

ポイント1  
 学校研究を活かしたカリキュラム・マネジメント

ポイント2  
 児童・生徒の「学びに向かう力」の醸成

ポイント3  
 児童・生徒一人ひとりに応じた指導・支援

今回は、各学校が、本資料で取り上げた設問や項目について自校の傾向を確認できるよう、学校のデータを書き込む欄を設けたほか、課題として取り上げた設問等について、成果を上げている学校へのインタビュー結果から各学校の取組のヒントとなるコラムを掲載しました。

市町村教育委員会及び学校では、本資料を参考に、それぞれの地域・学校における強みと課題を踏まえた、学びの充実・改善に向けた取組の推進をお願いします

※「令和元年度版 かながわの学びの充実・改善のために」は、かながわ学力向上シンポジウムで配付しました。  
 神奈川県ホームページにも掲載しています。[令和元年度版 かながわの学びの充実・改善](#)で検索。

**B1の設問について 正答率が高い C小学校の先生の話**

※児童質問紙調査の「(46)算数の勉強は好きですか」、「(51)算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いませんか」に対して、肯定的な回答をした児童の割合が高い学校です。

授業中は、児童同士の「学び合い」を大切にしています。  
 分かった気になっている児童が、確かに分かったということを実感するために、「学び合い」を通して、「しつこいけど念のためね」と言いつつ、分かったことを言葉で表現してもらっています。

新しい問題に、みんなで立ち向かう姿が見られますし、「学び合い」により、確かなものとなった自分の考えを、言葉で表現することに抵抗感はないように思います。

きっかけは、校内研究会に招いた大学教授が紹介してくれた、他校の授業を記録した動画でした。  
 児童と一緒に動画を視聴しました。児童からは、「ああ、こうして発言すればいいんだ」という声がかかるなど、「学び合い」の進め方を学んでくれたようで、翌日から、劇的に授業に取り組む姿勢が変わりました。

今後の課題は、活動を通して、しっかりと資質・能力を育むことです。

基調講演「かながわの学び、これまでの歩みと成果」  
 横浜国立大学 青山 浩之 教授

「かながわの学力向上は、学力テストの数値をどうしようというよりは、授業をどうしていこうか、という方向性で歩みを進めています。」



学びづくりの成果  
 「授業が変われば子どもの変化が分かる」  
 「教師が授業を楽しむ」  
 「学校が変われば子どもが変わる」  
 「対話が広がり、  
 学校が学びづくりを楽しむ」  
 「地域・家庭とともに学びが活性化」

「授業力の向上は、学力テストに対応することではなく、学習を楽しくさせること、授業を改善しながら、子どもたちの学ぶ意欲を高めていく取組を進めていくことです。教員の授業力向上が欠かせません。」と、青山教授は「かながわの学びづくり」が目指してきた方向性を確認しました。

「かながわ学力向上シンポジウム」の歩みを、3期（模索期、探究期、継承・発展期）に分けてふり返り、「かながわの学びづくり」の成果を、「授業」「研究協議・研究連携」「保護者・地域との連携」の観点でまとめ、「県内の多くの地域で、『授業が楽しい』『学びづくりが楽しい』と、教師や地域・家庭の大人たちが感じることでできる学びづくりが取り組まれてきている。ますます全県に広がってほしい。」と締めくくりました。

- 令和元年度 かながわ学力向上シンポジウム
- 13:40 基調講演 「かながわの学び、これまでの歩みと成果」  
 横浜国立大学 青山 浩之 教授  
 「学びづくりで つながりづくりを」  
 横浜国立大学 池田 敏和 教授
  - 14:25 ワークシート記入
  - 14:35 休憩
  - 14:50 語り合い① 「子どもたちの学びをつくるには」 ※グループで語り合い  
 全体交流 ※事例の紹介 → コメンテーターによるコメント
  - 語り合い② 「子どもたちの学びをつくるには」 ※グループで語り合い
  - 15:50 コメンテーター総括
  - 16:05 今後に向けて ※子どもたちの学びをつくるためにしたいことを伝え合う
  - 16:20 教育委員の所感
  - 16:25 閉会の挨拶
  - 16:30 閉会

基調講演「学びづくりで つながりづくりを」  
 横浜国立大学 池田 敏和 教授

「子どもたちの言葉を見ていくと、私たちが子どもに育てたい力の一端が現れています。子どもの素朴な思いを可能性として捉えられるかどうかは、教員が子どもを解釈する力であり、教員が最も磨かなければいけない力です。」  
 「言葉の中に、子どもが主体的に知ろうとしていることが見えてくる。」と、池田教授は、子どもが学んでいる視点から、これから

の世の中に必要となる汎用的能力（問題発見力、柔軟な見方、批判的思考、ねばり強さ、おもいやり、等々）について授業を捉え直していくことを提言しました。

「助長」「浩然の気」という故事成語の語源や成り立ちから、子どもだけではなく、教員を育てていくときにも大切な考え方を述べ、ボトムアップやつながりの中で学びが深まっていくことを確認しました。

参加者内訳（計 233 名）

県市町村指導主事	169 名
学校管理職	13 名
学校教員	35 名
P T A（保護者）	9 名
一般	3 名
県教育委員	4 名



このような子どもの声を聞き流していないか？  
 「なんか、こんな気がするんだけど・・・」  
 「何を言っているのかチンプンカンプン。」  
 「もっとわかりやすい説明ないの？」  
 「どうしてこのやり方だとダメなの？」  
 「なんでそうなるのかわからないよ。」  
 「こういう場合はどうするの？」  
 「何かすっきりしないんだけどな・・・」

助長

急速に成長させようとして無理に力を  
 添え、かえって成長を妨げること

宋の人で、苗がなかなか成長しないことを心配して、この苗を引っ張って伸ばす者がいた。くたくたになって帰宅すると、家族に言った、『今日は疲れた。苗の成長を助けてやったからな』。その子が（不審に思い、畑に）駆けつけて苗を見ると、苗は枯れてしまっていた。

浩然の気

天地にみまざっている、万物の生命力や活力の源となる気  
 物事にとらわれない、おおらかな心持ち

子どもの学びに対して

「子どもの疑問の声をただ聞き流している」のは、いわば畑の雑草取りをしない行為である。  
 「子どもが学びたいと感じていないのにそれを無理強いする」のは、いわば苗を引き抜く行為である。

孟子「巻3公孫丑章句上」

語り合い「子どもたちの学びをつくるには」 ～ワークシートをもとに語り合う～

FAX送信票 神奈川県教育委員会 子ども教育支援課あて(045-210-8937)  
 ※後日ファックス送信いただく場合、令和2年1月31日（金）までお願いいたします。

かながわ学びづくり推進事業  
 令和元年度 かながわ学力向上シンポジウム ワークシート  
 令和2年1月17日（金）神奈川県立総合教育センター（実行庁舎）大講堂  
 このワークシートを撮影、スライド提示させていただく場合があります。  
 黒のボールペン等、明瞭に読み取れる筆記用具でお書きください。

①（基調講演）「かながわの学び、その先へ ～学びづくりでつながりづくりを～」  
 横浜国立大学教育学部教授 青山 浩之 先生「かながわの学び、これまでの歩みと成果」  
 横浜国立大学教育学部教授 池田 敏和 先生「学びづくりでつながりづくりを」

基調講演を受けて・・・  
 語り合おう「子どもたちの学びをつくるには」

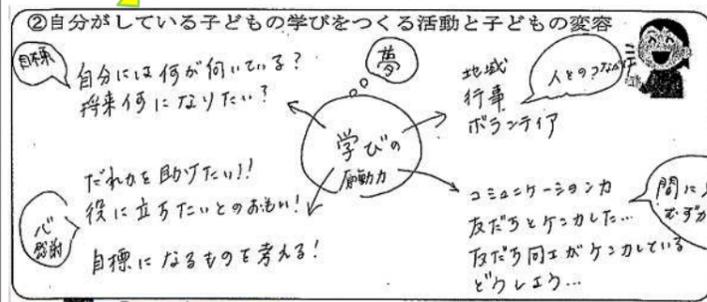
②自分がしている子どもの学びをつくる活動と子どもの姿容

③語り合いを受けて・・・

④今後に向けて（子どもの学びをつくるためにしたいことを語り合う）

ご自身のお立場（〇で囲んでください）  
 幼保こ教員・小学校教員・中学校教員・市町村指導主事・県指導主事・保護者  
 その他（お書きください）

※ 記載済みのこの用紙を、ファックスにてご返信くださいますようお願いいたします。ご返信いただいた内容を、今年度のシンポジウムの概要をお伝えする「令和2年度かながわ学びづくりプラン」作成の資料とさせていただきます。今までの「かながわの学びづくりプラン」は、神奈川県教育委員会ホームページに掲載しています。



書き込んだワークシートをもとに、会場内でグループをつくり、語り合いました。

コメンテーター（神奈川県学力向上支援連絡協議会委員。敬称略。写真右から）より

- 教員が子どもたちの思いを引き出す学びづくりを続けられれば、将来に立ち向かっていける力が醸成される。今日の対話で「そうだな」と思ったものを各組織に持ち帰り、継承してほしい。（横浜国立大学教授 青山浩之）
- 子どもが興味をもてるような学びづくりを考えたい。子どもは授業の中で何を学んでいるかを、大人の目と、子どもの目でとらえ直してほしい。子どもの学び自体をもう少し見つめていきたい。（横浜国立大学教授 池田敏和）
- 教員は勉強を秤にして子どもを認めたり認めなかったりしてはいけない。その子の中身を認めること。子どもが授業で、教職員が職員室で、頭が活性化する学びづくりや環境づくりを。（相模原市立中央中学校長 今井 勉）
- 子どもが自ら育つ力を大人がどう信じるかが大事です。人とかかわりの中で、いろいろな人がいて社会が成り立つことを感じ、人がつながって価値観が多様化されて仕合わせになり、様々なことを否定しない子を育てたい。どの子どもかわいしいし、どの親もどの先生も頑張っています。今後もみんなで一緒に頑張っていきたいと思います。（神奈川県PTA協議会副会長 大木健一）

《参加者のアンケートより》

- 神奈川県「学びづくり」の取組についてよくわかりました。神奈川の教員でよかった！と心から思いました。（小学校教員）
- これからの時代を生きていく子どもたちにとって「つながりづくり」を、これが大切。とても納得できました。（小学校教員）

- 「～したい、～なりたいたいと思うことが幸せにつながる」が心に残った。（中学校教員）
- かながわの学びは、つながりや学ぶ姿勢づくりだと感じました。（中学校教員）
- 伝えることで、人の考えを聞くことで自分の考えが深まる。率直に話し合うことこそ必要。（指導主事）
- 「結局皆一人の人間（先生、親）として、子どもが明るい未来を見つめられる環境づくりに努めたいですね！」と、グループでの語り合いを明るく締められました。（保護者）
- 先生方がこのように学んで子どもたちへ教えてくださっていることを知り、感銘を受けました。（保護者）

お知らせ 令和2年度の「かながわ学力向上シンポジウム」は、令和3年1月24日（日）午前10～12時、「かながわ県民センター」（横浜駅西口から徒歩5分）で開催する予定です。